

別添1

架け橋期のカリキュラム(就学前施設)

架け橋期のカリキュラム(小学校)

		就学前施設名											おだか認定こども園											小学校名		小高小学校			小学校1年生											小学校2年生～							
共通の視点	月	0歳～	5歳児											4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3										
				あそびで育つ 学びの基礎 (自分の思いを伝える)																							幼児期で培ったものを基盤に学習意欲へ																				
南相馬市の期待する子ども像		【幼児期が目指す子ども像】○様々な環境に関わる中で豊かな感性が育まれ、色々な表現で伝えようとする子ども ○自分を大切に、他者と共感しながら育ちあう子ども ○自分で考え、自分の思いを伝えることの出来る子ども R8重点目標【友達とつながる】～思いが通じ合う喜びを感じる～																							【小学校1年生の目指す児童像】 ○自分のことを自分で伝えられる子ども ○状況にあわせて、自分で考え、行動できる子ども R8重点目標【YOU CAN DO IT, DO YOUR BEST】																						
発達段階を踏まえた先生のねがい		○ありのままの自分を受け止めて認めてもらいながら、個々の強みや興味を尊重した活動をとことん楽しむことが出来るようになる ○健やかな体で安全で快適に生活するために、常々今何をすべきか、どうすれば良いのかを考え選択出来るようになる ○遊びや生活の場で経験してきたことをもとに、主体的・自発的に活動し、工夫したり挑戦出来るようになる ○自分なりの表現で人やものとかかわる経験を積み重ねることで他者とコミュニケーションを図り協働する力がついていくようになる																							○知・徳・体・コミュニケーションのバランスの取れた「生きる力」を育むことを目指し、発達の段階や特性を踏まえ、資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できるようにする。 ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにする。 スタートカリキュラム (入学後、1ヶ月程度) 【幼児期の教育を通じて身に付けたことを生かしながら】 ・生活科を中心とした総合的・関連的指導 ・個々の発達や強みを理解し、ひとり一人に合った配慮 ・児童が自然な形で意欲的に学習に取り組めるような → ・1単位時間が45分となるように段階を追って実施(発達段階及び学習内容に応じて臨機応変に実施) ・各教科等の年間授業時数を確保																						
◎期のねらい ☆具体的な活動内容		1期 ◎進級した喜びを感じながら、様々な活動をやってみようとする。 ☆入園式 こどもの日祝い会			2期 ◎自分なりの目的をもって、試したり工夫したりしながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ☆七夕会 夏祭り 水遊び・プール遊び			3期 ◎友達と互いに思いや考えを出し合い、力を合わせて遊びを進めようとする。 ☆運動会 遠足 さつまいも掘り			4期 ◎自分たちで考えたことを遊びの中で実現したり表現したりする楽しさを味わう。 ☆おたのしみ会(発表会) クリスマス会			5期 ◎友達と考えを出し合いながら遊びや生活を進め、やり遂げる喜びと充実感を味わう。 ☆学校探検 節分 ひな祭り 修了式 小正月 餅つき お別れ遠足			【ねらい】 学校生活を知り、友だちや先生との信頼関係を築く。 ・学校探検 ・体育館遊び ・給食当番・清掃活動 ・方部児童会 ・1年生を迎える会 ・健康診断 ・運動会											【ねらい】 友だちや先生との信頼関係を深め、安心して学校生活を送る。 ・5歳児との交流活動・避難訓練 ・鑑賞教室 ・遠足 ・学習発表会 ・マラソン大会			【ねらい】 1年間を振り返り、2年生への進級に向けての期待感をもつ。 ・1年生さよなら会 ・6年生を送る会 ・なわとび記録会 ・カルタ大会 ・修了式																
配慮事項	先生の関わり	○子どもたちが自分を様々な形で表現しそれを受け止めていくことで、幼児期の学びの基盤となる安心感と信頼関係を築く関わり ●子どもの「なんで？」{やってみよう！}という興味や疑問を持つことを大切にすること ◎子どもが表現したことを肯定的に受け止め、友達同士の見合う・聞き合う経験を作ることで自己肯定感を高められるようにする ☆子ども同士の学び合いを促せるように、ペアや小グループで話し合ったり助け合える工夫や対話が生まれる距離感を大切にすること ☆子どもが考えたり迷ったりしているときに、保育者が先回りせず考えを確保し、選択の瞬間を尊重する関わりをする。 ●自分の思いを表現することを大切に、言葉を補いながら自分の言葉で伝えられるようにする。また、みんなで話す時間の中で自分の思いを出していることを肯定的に受け止められることで、友達の話にも耳を傾けて聞き、友達の思いにも気づいていけるようにする。																							幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 ①健康な心と体 ②自立心 ③協同性 ④道徳性・規範意識の芽生え ⑤社会生活との関わり ⑥思考力の芽生え ⑦自然との関わり・生命尊重 ⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い											○子どもひとり一人の発達の様子を円滑な引き継ぎで出来る限り理解し、新しい環境での安心と信頼の土台作りを行う。 ・名前を呼ぶ、笑顔で答える、詳細な子どもの変化に気付く ●「遊び中心の生活」から「学び中心の生活」のギャップを滑らかに繋ぐよう配慮する。 ◎対話を通じたことばの育ちを意識し、「考えを引き出す問い」や「リフレクション(振り返り)」を意識する。 ★学習内容が自分の生活や体験と関係があることを意識させながら身近なものとして学びが深められるようにする。 ☆主体的な学びを進めていくため、遊び・考え・試す経験を保障し、十分時間をかけながら対応していく。 ●初めての活動に対して主体的に取り組んでいけるよう、園での経験を生かして話し合いをしながら児童と一緒に決めていけるようにする。 ○「先生は自分を見てくれる」「失敗しても大丈夫」「困っているときは助けてくれる」と感じられる安心感を早期に築くことが出来る環境を整える。 ○学級のルールは「禁止」ではなく「安心して過ごすための約束」として共有する。 ●遊びの延長線上に「学び」を感じさせる活動(例：生活科の探求や観察) ●手を動かして考える活動(ブロック絵カード・手あそび) ●一斉指導だけでなくペアやグループ活動で対話の型を身につけられる環境 ◎「どう思った?」「どんな感じがした?」など感情も含めた問いかけや、ペアで伝え合う→全体共有の順で話す安心感を育てる。 ★生活科や国語での題材を自分事として捉えられるよう日常と関連付ける。 ★家庭との連携を意識し「うちでも話してごらん」と家庭学習とつなげていく。 ☆どっちにしようかな?と迷う時間を保障し選ばせる。 ☆成功も失敗も学びとして位置づける。											
	子どもの学びや生活を豊かにする環境構成	○ひとり一人の存在を受け止めるまなざしや雰囲気。○保育者同士の温かなやりとりを子どもたちが感じられる環境(空気感) ○自分の居場所がわかる・生活に見通しがあるなどの物理的な安心を作る環境 ○一貫した生活リズムを作ることで子どもたちの安定感を得られる環境 ○クラス全体の話し合いだけでなく安心して話せる小集団・ペア活動の時間を設ける○評価より「嬉しかったね」「そう思ったんだね」など共感の言葉かけにする ●触れて確かめられる季節の自然物や身近な道具(虫眼鏡・磁石・様々な空き容器・鏡など) 遊びの延長線上で実験や観察に発展できる環境 ●つばやきを拾う保育者の姿勢や失敗をしても責めず、「やってみよう」自体を価値づけるなどの保育者の関わり ●自分で試行錯誤を楽しむ十分な自由活動時間を確保することで、一瞬で芽生える子どもたちの興味を深めていける配慮と環境 ◎表現の多様性を保障し、自由に絵画・音・身体表現を展開できるコーナーや素材に触れて使いたいと思えるオープンな環境 ☆子どもが選択できるよう、活動・遊び・道具など配置し、「自分で選んで自分で戻す」仕組みを作り、子どもの主体性の中に生活のルールも入れていく。																																													
園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成		○自分の生活に必要な生活習慣を自ら身に付け、その大切さを理解して行動出来るようになる⇒生活習慣が自立し、自信をもって生活する ○主体的な活動を通して自信を高め、自己を十分に発揮する⇒満足感や達成感を十分味わい、就学に期待をもつ(お別れ会・修了式) ○身体全体を供応させる動作を楽しむ⇒全身運動がなめらかになり、積極的・積極的な運動をする(なわとび・とびごこ・鉄棒・ダンス) ○自分の思いや考えを伝え、相手の話を聞き自分とは異なる思いや考えに気付く ⇒友だちの意見に共感したり、言い合ったりしながら調整し、仲間との関係を深める(行事に向けた話し合・毎日のミーティング) ○数量、図形、時間に興味をもち、生活や遊びの中で使う機会を増やす⇒日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を高める(学校ごっこ・サンタクロースへのお手紙・友達への年賀状・母の日父の日などのメッセージ・行事のプログラム・招待状作りなど) ○身近な自然やものを五感で感じ取り、思ったこと想像したことなどを、様々な方法で表現する(野菜の栽培・生き物を飼育) ⇒様々な知識や経験を生かし、創意工夫しながら、遊びを発展させる(水あそび・花を使った色水・どんぐり遊び・氷・雪遊び)																							道徳教育 ・生きることのすばらしさを知り、生命を大切にすること。 ・身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること。 各教科等の学習・生活(小学校生活や教科等の学習に興味・関心をもち、主体的に関わる) <生活>みんななかよくになりたいな はじめまして がっこう <図工>どうぞよろしく <算数>なかよしあつまれ <生活>はなをそだてよう <国語>おおきくなった <算数>かたちあそび <図工>はこでつくったよ <国語>いいこといっぱい一年生 <生活>1ねんかんをふりかえろう <算数>なかよしあつまれ											○生活科を中心に、時間を弾力的に取り扱い、総合的・関連的な指導や弾力的な時間割を設定する。 ○個と協働を往還する児童同士の学び合いを重視し、試行錯誤しながら実感を伴った理解を深めることができるような単元構成にする。 ・学校行事や事前練習 ・生活科の授業(秋を見つけよう) ・体育科の授業(一緒に縄跳びをしよう)											
子どもの交流		1年生徒の交流 5月(親しみを持つ) 夏の水遊び7月(工夫したり、試したりすることを繰り返す)			1年生との園外活動10月(自然に触れ合う) 自然物を使った遊び11月(お互い楽しんでることを伝え合う)			・入学式 ・授業参観、学校公開 ・個別面談 ・運動会 ・学習発表会 ・なわとび記録会 ・就学時健診																																							
家庭や地域との連携		年間を通して1年生との交流の機会に地域の方や園児、生徒の祖父母の参加を募り、一緒に交流する			保育参観 引き渡し訓練 就学時健診 入園説明会 高齢者施設訪問 敬老会参加 園舎解放 運動会 修了式																																										

※「学習指導要領解説 総則編」より一部引用